

授業科目 高次脳機能障害学

【担当教員名】 能登 真一		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 脳損傷によっておこるさまざまな高次脳機能障害について、理学療法士が臨床現場でそれらを的確に評価し、あるいはそれらの障害に対する的確なアプローチができるように、基礎知識を整理した上で、評価方法、アプローチ方法などを学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害を学ぶための脳解剖知識が整理できる。 2. 高次脳機能障害の個々の症状を列記し、それらが生じるメカニズムを理解できる。 3. それぞれの高次脳機能障害に対応する評価方法を述べ、一部を実施できる。 4. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチの基本姿勢を説明することができる。 5. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチ方法について、議論できる。 6. 高次脳機能障害に関心を持ち、治療者としての責任感を身に付けることができる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳解剖の整理と高次脳機能障害の概説			1	講義
2	高次脳機能障害の臨床像			2, 3	講義
3	失語、失行、失認とその評価・アプローチ方法			3～6	講義、演習
4	注意障害、記憶障害とその評価・アプローチ方法			3～6	講義、演習
5	半側空間無視とその評価・アプローチ方法			3～6	講義、演習
6	Pusher 症候群とその評価・アプローチ方法			3～6	講義、演習
7	前頭葉症状とその評価・アプローチ方法			3～6	講義、演習
8	まとめ			1～6	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		高次脳機能作業療法学	能登真一	医学書院	2012・3,800円＋税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席 (10%) + 期末試験 (90%)			【履修上の留意点】		